

巻頭言



鹿児島国際大学 学長 津 曲 貞 利

人口減少と少子高齢化が同時並行で進行する地方における大学経営は年々厳しさを増すばかりであるが、それは同じ宿命を共有する地方自治体あるいは地域社会にも当てはまることである。

本学は平成25年度よりスタートした「自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援すること¹」を目的とする COC (Center Of Community) 事業を、地域における知のストック機能であり且つ地域を支える人材育成の場でもある地方大学の今日的在り方を検証する絶好の機会と捉え、初年度から果敢にエントリーしたが、カリキュラムへの取り込みや全学的な支援体制の構築、自治体との連携などハードルが高いうえに、同様の問題意識を持つ地域や大学も数多く、二年連続して採択を逃してしまった。

「やはり地方私立大学には無理なプロジェクトなのか」と半ば諦めかけていたところ、平成27年度は「地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援する²」COC+という新たな枠組みとなり、鹿児島大学を中心に県下8大学、鹿児島県、企業等14団体が参加する『食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム』として申請を行い、無事採択の運びとなった。また、併せて本学が単独で申請した「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」も COC 事業として採択され、漸く3年目にして悲願達成となった。

地方における人口減少は18歳から22歳にかけて際立っており、就労人口のみならず次世代を産み育てる年齢層の著しい欠落は、地方に更なる悪循環をもたらしている。18歳までの教育カリキュラムが、教科別・知識重視・全国仕様に

¹ 文部科学省「平成25年度「地（知）の拠点整備事業」パンフレットについて」
< http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/1346066.htm >

² 文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」
< http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/ >

偏り過ぎていることによって、地域における産業振興や福祉・医療、エネルギー・環境などへの関心や問題意識を持たせ辛い現状の中で、地域への愛着を持ち、地域課題に挑戦する若者を育てるためには、教室の中より地域を「見える化」するフィールドワークの方が効果的な場合もある。「現場」ならではの臨場感によって彼らの社会参画スイッチをONにしようというこの取り組みはまだ緒に着いたばかりであるが、地域に存在する地方私立大学ならではのプログラムに育つことを切に願っている。